

Strix 7 : 299-300 (1988)

島根県沖の日本海への廃油不法廃棄による海鳥への被害

大畑純二¹

1986年1月と3月の2回にわたって、島根県沖の日本海で不法に投棄された廃油が山陰から北陸にかけての日本海沿岸を汚染した事件は、まだ記録に新しい。この時の油汚染によって犠牲になった海鳥は、ウトウをはじめウミスズメ、オオハム（図1）、ミツユビカモメなど数千羽に及ぶものと推定された。私自身も江津市の江の川以西を調査して、ウトウ58羽、ウミスズメ3羽、オオハム3羽の死体を確認した。



図1. 廃油汚染によるオオハムの被害。

1986年1月、江津市敬川町佐名目にて撮影。

1986年に続いて1987年もまた2月4日に廃油が漂着した。87年のは86年ほどの規模ではないが、それでも江津市の江の川以東～宍摩郡仁摩町にかけて幅1～5mの廃油ボールやタール状の廃油の帯となって海岸線にべったりと付着した。幸い87年の廃油汚染による海鳥の被害は少なく、江津市浅利町から黒松町にかけての海浜を調査したところでは、ウトウ2羽の死体を発見しただけであった。しかし、個体数は少ないとはいえ、このように頻繁に廃油汚染によって被害鳥が出ることは非常に困ったことであり、海鳥の保護上、重大な問題である。

なお、86年の被害時にわかったことであるが、ウトウは冬期に鼻の上の突起を落としてはおらず、また、目の上の白い飾り羽も付けたままであった。

1. 〒695 島根県江津市二宮町神主ハ 146-8

Injury to Seabirds caused by the illegal dumping of
waste oil in the Japan Sea off the coast of Shimane prefecture

Junji Ohata¹

In January and March 1986, waste oil that had been dumped off the coast of Shimane prefecture polluted the Japan Sea coast from Sanin to Hokuriku. Several thousands of sea

birds became the victims of this oil pollution.

1. 146 - 8 Ninomiya-machi, Gotsu-shi, Shimane 695

1988年9月2日受理